

或る日突然……

「七月八日に農協が部落から野菜を集めて直販をやる」という耳

にしたのは、

俺たちが遅い

田植えを済ま

せた六月下旬

頃だった。

農協は三年

ほど前にも直

販をやったこ

とがある。そ

の時は、全然

採算がとれず、

部落の人たち

の反応も鈍く

で、あとが続かなかった。

（部落のAさんの話）「なんだ

は、農協の（直販）は駄目だよ。

手回賃はえっと（たくさん）取るし、支

払いはいつになるかわからんけ。横

谷部落でも二軒だけで、それもカン

ラン（キャベツ）くらいらしいで。」

広島三越の店頭で

さて七月八日に俺たちがいつももの

ように広島直販へ行つたとき、意外

な事実を知らされた。

（広島消費者の話）「あんた

たち三越でも野菜を売ってるの？」

三越の前に野菜を並べて、確が弥栄

とか産地直送とか書いてあったわよ

じ

急いで調べに行つてみると、以下

のような状況だった。広島根岸弥栄

村・高原野菜・産地直送の大きな

看板。期間は七月八日から一週間・

村役場で農協が、三越と契約を結ん

で、以後月二回一週間ずつ用いてい

くつものらしい。野菜は一五、六品

種、ニトントラックで毎日運んでい

るとのこと。村で見慣れた役場や農

協の若い職員が、十人ほども出向い

ている。さらに野菜を見て驚いたこ

とに、七月上旬の時点で、弥栄では

時期的にまだこれないはずのナスや

白ウリ、スイカなどが並んでいた。

（農協の職員の話）「いやはい、

弥栄を集めたんは、シイタケやらワ

サビ・キャベツくらい。スイカなん

かは流田や益田の農協から仕入れた

んだあ。一日二〇万は売れてるよ。

あんたも手伝わんか。」

弥栄村でとれた新鮮な高原野菜と

か言いながら、その実全然保証ので

きない他農協の野菜でイロをつけて

いたのである。

マスコミのデタラメ記事

事実経過は以上の通りだが、次に八月一四日付中国新聞の島根版よりこの産直に関する記事をあげてみよう。

売れ行きは上々

弥栄村産の野菜

広島市の百貨店に定期出荷

過疎に悩む那賀郡弥栄村は、農業振興対策の一つとして七月から高冷地でもきた各種野菜やフキなどを、広島市内の大手百貨店（三越）に出荷しているが、売れ行きは上々。村側はこれを機に市場性などを研究、村農協とタイアップして計画栽培を進めることにしている。

弥栄村は、かねて農業などを使用しない無公害で新鮮な野菜を、背中あわせの大消費地・広島市で売り出そうと、一時は同市内の団地で直販したことがある。この実情を知っている広島県内の業者が

村と百貨店の面をあっせん、七月初めから村農協の協力を月三回二週間ほどの出荷に踏みきった。

高冷地で野菜のできが時期的に遅れ、価格も一割前後安いとあって予想以上の好評。今後の成果が期待されている。

この新聞記事には、二つの点で事実誤認がある。一つは「無公害野菜」であるという点、もう一つは「一時は団地で直販したことがある」という点である。この誤認は明らかにわれわれ共同体の今までやってきた直販ととりちがえているものである。

産直・その背後にあるもの

こうした村役場と農協の動きは、

弥栄村「総合振興開発計画」(コミニヒバNo.18で紹介)の一環として始められたものだろう。しかし、農民から買

いたために仕入れた野菜を安く売ろ

うとする産直は、村民を搾取、抑圧し、村から遊離したものでしかない。二トントラックを動かしたり、三越に場所代を払ったり、販売にアルバイトを雇ったりしていることから考えても、結局、この産直が採算をあげるためには、どんどん日中間業者としての姿勢を強める以外にならう。それは、七月三日日からのオニ回産直で、ますます他農協からの仕入れ品が多くなってきていることから明らかである。

要するに、弥栄村産でもない野菜を豊富に入れて、無農薬でもない野菜を無公害と売り込み、村の人たちとは全くかけ離れたところで、中間業者としての利潤を追求して、村の農業振興どころか削いでいるのだ。

姿を現わした敵

いずれにしても、今回このような形で役場、農協が必死の姿勢で「産直」をやり始めた背景には、明らかに俺たち弥栄之郷共同体が二年間やり続けてきた「直販」があるものと思われる。その意味で、弥栄村での俺たちの活動は存在価値があったし、村の機構の一部分を突き動かし始めたのだと自信をもってもよいと思う。しかし、また俺たちは、はっきり対峙しあう敵として「村役場農協の産直」を批判していく必要があるだろう。と同時に、日ガマの穂（部落向け新聞）もや日直販ニュース（消費者向け新聞）も、こうした産直と俺たちの共同体直販の質的な違いを、はっきりと知らせていかななくてはならない。

そこで、俺たち自身がつくつていこうとする「コミュニティ社会」の、経済面での具体的な「牙」も現えてくるであろう。

（山室 邦夫）

＊ガマの穂・直販ニュースを読みたい方は、切手を貼った封筒・同封の上、島根県郡賀部弥栄村三豆 弥栄之郷共同体までおたより下さい。

わたちのきょう

7月17日 へま、大阪へ出稼ぎにやってくる。

8月1日 夜になると自動車学校の優等生になん

7月14日 夕日、日光ハニトリの巣

8月上旬 山崎、秋田へ果樹留学。

8月12日 初のニフトリ大産後授乳（産後生）

8月14日 盆おどり、あんなつかしの金おどり

スしぱりにお酒が入り、皆上気味でした。

8月15日 部落の国本さんへ全員でおしかけ、夕食をゴチソウになる。

8月19日 大阪生稼ぎ組、蛍光燈のきの

強行軍を貫徹す。

9月3日 大阪オニ三回勉強会

キーコがフランス革命史を熟弁

9月14日 キャンスのリュニオン（京都）

9月16日 リュニオン（東京）

9月21日 大阪こむうな型では、このころ

中学2年生の生徒が自分たちで型紙を立て直そうと、生徒をいやすためのボスター書きや手紙がきに懸命。一度の書きにきて下さい。

9月23日 広島で連絡会議

9月27日 ニフトリのヒナ25羽到着予定

10月10日 収穫キャンフ

箱入りや堆肥づくり、シイタケの原木切り

出しなどやります。防塵具を忘れずに

としとし 参加を。

自己解体する共同体

コミュニズム革命論

われわれの弥栄之郷共同体を、他の共同体と比較して
もっとも特徴的だと思われる点は、村を丸ごと運動に巻
き込もうとしている点である。われわれはそれを「村の
コミュニケーション」と呼んできた。

「コロニー」と「コミュニ」

われわれは「コミュニ」を選んだ

1. 社会的 コロニー

にもかかわらず、今のわれわれの

弥栄之郷共同体は、資本主義の海の

体を構成していることの矛盾……。

しかしわれわれは、この社会主義

的「コロニー」を「コミュニ」社会への止

場と発展の道程にある不可避な一過

中に漂う、一つの

社会主義的コロニ

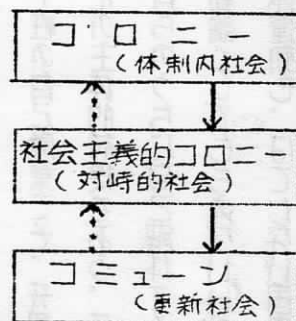
ー（ジードルング

）ではない。共

同態をめざしなが

ら、現実には共同

程として与える。



現実の共同体は、右図のような三

つの存立形態の間を移行するのであ

るが、今われわれがどこにいるのか

ということは、われわれの現実の運

動あるいは生活が、われわれをとり

まく資本制社会といかなる関係性の

もとにあるかということによって決

定されるのである。われわれは、資

本制社会の存立の構造的原理とまっ

たくオルターナティヴ（代替可能）

な構造的原理をわれわれの共同体内

に有することによって、資本制社会

と対峙的な関係に立つことができる。

2. 動態 社会観

別言すれば、われわれはつねにへ社会化へとへ国家化へという相反する二つのバクトルの接点にいて、そのバランスの上に今の共同体の存立形態を現象させている。国家社会のなかにあつてのオルターナティス性とは、社会化の程度によって評価することができらるであらう。

(補註1) へ社会化へ国家化へといふときのへ社会へは、とくにへ国家への対立概念としてとらえる。へ国家へが政治的・イデオロギー的に支配された集団形態であるのに対し、へ社会へは、経済的・生活的な自治的集団形態である。

(補註2) カール・コルシュはへ社会化へを所有形態の方法に限定した意味で使用する(コレクティベ運動と過渡期社会と)

ようだが、より普遍的には、へ社会化へとは人間社会あるいは個人の人格のアトム化の方向と逆極にある価値概念——人間が類として共存共栄していくための開かれた関係、開かれた共同性として理解できる。

その意味からすれば、集団有(国家有)もその二形態(へ)をへ社会化へとして考えるコルシュの考え方に対して、無所有化をへ社会化へとして考えるのが筆者の立場である。

われわれの共同体は、社会化によつてコミュニオンへ止揚する可能性をもっているとともに、国家化によつてさらに深いコロニーの深淵に陥落する可能性をもっている。それらは常に背中合わせである。コロニーのもつ共同体内的なへ shared society へとしての質は国家化の要素であり、

「コミュニオンはへ open society へという社会化の要素をもつゆえに」「コミュニオン」という存立形態をとらせる。

重要なのは、すべての社会をこのように相反する二つのバクトルが拮抗するバランスの上になりたつていゝとする。動態社会観というべき認識法である。

3. コロニー性の自己廃棄

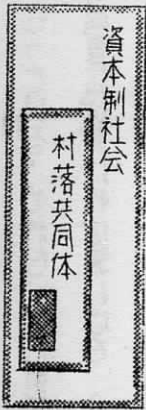
さてそれでは、われわれの弛張え郷共同体は、それがもつコロニー性を自己廃棄していけるだろうか。コロニー性の自己廃棄こそ、共同体の社会化の主体的前提である。すなわち、自らのうちに自己解体する機能を運動論としてもちえないいかなる共同体運動も、はてしない国家化への道を歩むしかない。

共同体の自己解体——それは内からの存立構造の組み変え、オルターナティブな要素の導入、結果として共同体のへ社会への昇化というパターンをとることになる。

われわれは「村のコミュニケーション」というより大きな社会化の過程で、へ社会主義的コロニーとしての一定の役割を果たしたとき、自らの共同体を解体してへ社会の中での共同態に昇化していくのである。

4. 三重の社会構造

弥栄之郷共同体は、左図のように二重の社会形態の重構造の中にはめまれているといつてよい。



弥栄之郷共同体

われわれの革命論は、資本制社会の転覆まで意図するのはもちろんのことであるが、ここではまづへ村落共同体を問題にすることによって、最初の枠をとりはすすことにしよう。

それが「村のコミュニケーション」最初の命題に戻ることになる。

先の図でわれわれをとりまく社会形態を三重構造として描いたが、経済的には、資本制社会の原理が村落共同体をも貫いていることは確かである。それにもかかわらず、現実には村落共同体は多くの点で資本制社会から、あるいは市民社会からある種の距離をもって村落共同体というコロニーを形成している。

(補註3) 村落共同体は歴史的、習俗的、風土的な共同性を主な準拠理由とし、またその結果としてのへ共通の精

神的風土を形成することによってより直接的に結びついた人間集団である。

5. 村落共同体の負の構造

しかし、われわれはここで、大塚久雄や丸山眞男らの近代主義者たちが指摘したへ村落共同体の負の構造を微細に検討しなければならぬだろう。

(補註4) 大塚や丸山らは、日本の村落共同体がとくに天皇制と結びついて強固な国家を形成してきたことを理由に、村落共同体を国家の末端部分として、あるいは国家性の二要素として把える立場をとっている。

(補註5) で指摘したような村落共同体の準拠性は、とりわけそのへ共通の精神的風土は、準拠理由の

異なる他の集団に対して強い排他性をもっている。それも、内に対する共同意識が強ければ強いほど、外に対する強い排他性をもっている。村落共同体のこのような内に対する共同意識は、外に対する排他性によって守られていると言えるだろう。このことがまさに滝村隆一のいうへ共同體一即一國家の性なのである。

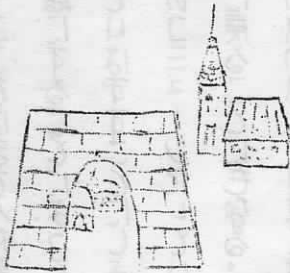
村落共同体の歴史は、ずっとそのへ共同體一即一國家の性の歴史であった。へ國家に絡みとられ、吹いとられた歴史であった。

(補註5) 明治以降の近代國家も、このような村落共同体のもつ精神的風土、たとえば家族主義、血縁主義等の保守的精神をそのまま國家の原理の中心に据えて完成されたものである。

「ユニオン」への転生

では、村落共同体のどこに弱さの原因があったのだろうか。それには村落共同体の存立構造をより詳しく検討していかねばならない。そのことによって始めて、「ユニオン」社会への架橋としての村落共同体を現代的に転生させることが可能になってくるのである。

(未完)



(尾関 弘)

いろいろばた

※今年夏のキャンフは、29名の参加者がありました。そのリユニオン(再結集)が、9月14日に京都で16日に東京で行なわれ、勢ぞろいした面々は意欲満々、今後も次のような形で集会や勉強会をやっていきます。

大阪集会

⑦ 9月29日 or 10月5日

・こむろな塾にて(四條畷市南野町93)

東京定期集会

・内容一収穫キャンフに代して

・毎月、オーストリア日(タラウジ)

・杉並区赤田山4-33-1光栄荘

・連絡は TEL 03-447-0282 田中 友子

・オ一回集会 10月5日(タラウジ)

※広島での9月23日・24日、大阪・広島・那

栄に散らばっているメンバーが一堂に会して「New」の収穫キャンフ(%)・(%)・稲刈り・地産直産品